

令和5年度 がん教育等外部講師連携支援事業「がん教育外部講師派遣」報告書

学校等名 長崎県立五島高等学校 担当者名 櫻井 紘子
 電 話 0959-72-3505 F A X 0959-72-5200

実施日	令和5年11月21日(火) 12:00~15:00				
場 所	長崎県立五島高等学校 衛看講義室及び各教室(リモート配信)				
講座名	健康講話「がんとその予防」				
講 師	長崎県五島中央病院 医療局長 今西 大介 氏				
近隣校への案内	案内先: なし				
参加者	生徒 全学年	学校職員	保護者	他校職員等	その他(なし)
	(351)人	(37)人	(0)人	(0)人	総計(388)人
テーマと内容	がんの成り立ちを含めた基礎知識から、様々ながんの種類、検診の必要性、治療法など、がんの検査・治療を含めた現状を幅広く網羅した内容であった。				

＜当日の様子＞ * 事業の様子等を必ず画像で添付してください。



【衛看講義室】



【教室(リモート配信)】

＜講師からの指導や助言・成果＞

- ・がんが発生して検診で見つかるサイズ(約1cm)になるまでには5~20年かかるが、そこから2cmになるまでには1・2年程しかかからないため、早期発見のためには毎年がん検診を受ける必要がある。
- ・アメリカよりも日本のがんによる死亡者は多く、約2倍。検診を受ける人が少ないことが原因と考えられる。
- ・がんになる要因は生活習慣と言われているが、感染や遺伝、原因不明のものもある。
- ・現在、男性では3人に2人、女性では2人に1人の割合でがん罹患している。
- ・がんになった場合、治療には様々な方法があり、場合によっては経過をみる治療法もある。
- ・闘病生活を送っている人にとって家族の支えはとても心強い。
- ・治療については、インフォームドコンセント(説明と同意)を経て決定されるものであり、不安があれば他の医師の意見も聞く権利がある(セカンド・オピニオン)。
- ・本校には衛生看護科もあるため、がんの患者への向き合い方や支援についての質問に対して、臨床に役立つ具体的な助言をいただいた。授業で習ったことも含まれていたが、知らなかったことも多々あったようで、生徒はとても興味深く真剣に聞いていた。感想文にも、予防や検診の必要性を感じ、大切な家族にも検診を勧めたいとの声が多く聞かれた。

＜今後の取組及び課題＞ * 今後のがん教育の充実に向けての活用等

- ・わかりやすく興味深い内容で、生徒だけでなく教員も学ぶことが多かった。今回学んだ内容を、補助教材等と併せて今後の指導に活かしていきたい。
- ・がんについて身近に感じることができる内容であり、生活習慣の改善や定期的な検診の必要性を実感することができた。特に、家族などの大切な人のためにこの知識を役立てたいと思う生徒も多く、命の大切さについても同時に実感することができたようだ。しかし、今までの生徒の状況を見る限り、一度の講話や授業等で行動変容につなげることは難しいと感じる。がんだけでなく、健康に関する取組を継続することで、がんの予防や早期発見・早期治療を含めた自他の健康の保持増進への意識の向上につなげたい。